

---

# 第3回 今治市総合都市交通体系調査 －検討委員会資料－

---

1. 第2回検討委員会での指摘事項への対応 .....	1
2. 交差点実態調査の概要 .....	2
2-1 交通量カウント調査 .....	2
2-2 渋滞・滞留長調査 .....	4
2-3 旅行速度調査 .....	6
3. 自動車交通の特性分析 .....	7
3-1 発生集中交通量の推計 .....	7
3-2 運行原単位等 .....	9
3-3 自動車交通分布（OD交通量） .....	9
3-4 高齢者の自動車交通の特性 .....	12
4. 現況の交通量推計と分析 .....	13
4-1 交通量推計の手順 .....	13
4-2 路線別交通量の検証 .....	13
4-3 交通量推計結果と考察 .....	14
5. 交通課題の明確化 .....	19
6. 将来フレーム .....	20
6-1 将来フレームの考え方 .....	20
6-2 市域将来フレーム .....	20
6-3 ゾーン別フレーム .....	22

平成21年2月20日（金）

# 1. 第2回検討委員会での指摘事項への対応

第2回検討委員会において、委員からの主な意見とそれへの対応方針を以下のように整理した。

	主な意見	対応方針
都市圏構造分析	・事業の熟度等から早急に対応が必要なものと中長期で検討するものがあり、その仕分けが必要である。	・事業の必要性の高い路線には高い優先順位をつけていきたい。 ・交通量が少ない必要性の低い路線については廃止も考えていく。 ・いずれにしても将来交通量の予測結果を踏まえてから検討を行うものとする。
	・整備路線の優先順位の設定方法についてどのように行うのか。	・将来交通量を推計した上で検討していきたい。
	・災害に対する観点が必要。	・「まちづくりの課題」に加筆（右ページ参照） ・交通面では地域道路の課題として明記済み。
交通現況分析	・道路交通センサスでは旅行速度が20km/h確保されている状況でさらにCO <sub>2</sub> の削減などが提案されているが、これを闇雲に向上、改善させるという目標は事業費の確保の観点からも難しい。 ・どの水準を目指すのか考える必要がある。	・市道については道路交通センサスのような交通実態調査が実施されていないので、20km/hが確保されているかわからない。市道で混雑区間があるとも考えられる。 ・道路網全体を踏まえ、検討を進める上で明確にしたい。
	・山地部では1車線の主要地方道などの県道が残っている。 ・すべて2車線で整備するというわけではなく、1.5車線の道路整備を含めて考えてもらいたい。	・将来交通量等を踏まえて検討したい。
	・高校生の自転車について、事故が多いのでその実態を把握するために学校にアンケートまたはヒアリングを実施してはどうか。	・予算的な面もあり今後への対応とさせてもらいたい。

## ●修正案

地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>少子高齢化への対応が急務</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化への人口構造の変化が進むなかで、これへの対応が急務</li> </ul> </li> <li>●<b>低迷する地域産業への対応が急務</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業人口や販売額等が低下し、地域の経済的活力低下が顕著となってきたため、産業振興や商業の活性化に向けた対応が急務</li> </ul> </li> <li>●<b>衰退傾向にある中心市街地への対応が急務</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地では、都市施設の集積があるものの、大規模小売店舗を始め、商店の閉店、撤退、居住人口の減少、高齢化の進展等により活力の低下が顕著となってきたため、中心市街地の活性化に向けた対応が急務</li> </ul> </li> <li>●<b>拡大化する市街地への適正な誘導が必要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心部からその周辺部での居住人口の集積の分散化や大規模小売店舗の郊外進出等により、市街地の拡大圧力が高いなかで、中心市街地とのバランスに配慮した計画的な市街地の誘導が必要</li> </ul> </li> </ul>



まちづくりの課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>安心・安全なまちづくりが重要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化に対応した都市構造、地域構造への転換に向け高齢者等に配慮した安心、安全に生活できるまちづくりが重要</li> <li>・<b>都市構造、地域構造の変化を反映した防災体制に基づいた計画の見直しや改善が必要</b></li> </ul> </li> <li>●<b>地域資源を活かしたまちづくりの展開が不可欠</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまなみ海道の供用効果は地域の中で確認はできたものの、地元商業へは、一過性に留まり、地域活力の向上施策との連携が不可欠</li> <li>・県外観光客の入込は供用時より維持できており、他の観光施設まで足を広げてもらえるよう地域の魅力の向上が重要</li> <li>・現在も成長を続けている産業や県内でも優位な産業がさらに発展し、その活力を多方面に拡大波及させるような連携施策が必要</li> </ul> </li> <li>●<b>地域活力を高めるまちづくりが不可欠</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展、人口減少等の人口構造の転換や産業、経済のグローバル化に伴う地域産業の低迷により地域の活力は明らかに低下しており、これに歯止めをかけ、地域活力を高める施策の展開が不可欠</li> <li>・今治新都市はその重要な役割を担うことから、計画的な整備の促進とともに、その整備効果を市域に波及させることが重要</li> </ul> </li> <li>●<b>持続可能なまちづくりが不可欠</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで整備してきた社会資本施設が更新期を向かえ、その対応が不可欠</li> <li>・今治市内では中心部が衰退、一方その周辺部では大規模小売店舗の進出等もあり市街地の拡大が懸念されるが、社会資本の新たな拡充整備は、厳しい財政状況を逼迫する可能性もある。このため市街地の拡大を計画的に行うと共に、中心市街地等の既存ストックが整備されている既存市街地の有効活用も検討が必要</li> <li>・地域の住民やボランティア、NPOとの役割分担と協働により自分達でできることは自分達でやるという意識の啓発が必要</li> </ul> </li> </ul>